

WBC 総選挙

—世界一奪還、そして日本開催へ—

産業能率大学 小野田ゼミ

○堀部沙織

加藤貴明

川村早紀

渡辺大輝

1. 背景

1.1 “国技”としての「野球」

バレンティン 56&57号——2013年9月15日の夜はどのテレビニュースもこの話題で持ち切りだった。それまでの記録保持者である王貞治が55号を放った1964年は、奇しくも東京オリンピック(以下、五輪)の開催年である。東京五輪でのスポーツ熱の高まりは、ON(王・長嶋)擁する巨人人気へと継承され、翌1965年から1973年まで、9年連続日本一という、人気一極集中型の大衆スポーツ観戦文化を醸成した。嗜好の集中化はスポーツに留まらず、万人が好むものとして「巨人・大鵬・玉子焼き」が流行語となった。国民栄誉賞の第1号(1977)は本塁打数世界記録を樹立したその王であり、今年2013年は大鵬幸喜(故人)と長嶋茂雄が相次いで国民栄誉賞を受賞した年でもある。

皮肉にも今年のもう一人の受賞者・松井秀喜がメジャーリーグ(MLB)に渡ったことが巨人人気に陰りが差した最大の要因と言われる。それまで連日地上波のゴールデンタイムに放送されていた巨人戦も今日では滅多に放送されることがない。とはいえ、表1に見られるように、2012年現在であってもテレビ観戦種目のトップは依然として「プロ野球」であり、6位にランクインしている「高校野球」も日本の風物詩として定着している。これらのトップニュース、国民栄誉賞、最も人気のある観戦スポーツという側面からして、「野球」は事実上、日本の“国技”と呼んでも差し支えないスポーツ種目である。

1.2 岐路に立つWBCと2020年に控える東京五輪

WBC(World Baseball Classic)はMLBが主催する野球世界一決定戦だ。日本は第1回大会(2006)でキューバ、第2回大会(2009年)で韓国を降し、連続して世界一となった。それぞれの決勝戦の視聴率(ビデオリサーチ調べ)は、祝日と重なった第1回大会が43.4%、第2回大会は平日午前に関わらず36.4%と、それぞれ驚異的な数字を叩き出している。今年の第3回大会(2013)も国内で行われゴールデンタイムに放送された2次ラウンドのオランダ戦は34.4%と注目度が高かったが、本戦・準決勝のプエルトリコ戦で敗退し、3連覇

表1. テレビスポーツ観戦率

全体 (n=2,000)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	61.5
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	56.7
3	バレーボール(日本代表試合)	52.1
4	フィギュアスケート	50.8
5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	49.5
6	高校野球	49.1
7	マラソン・駅伝	47.9
8	大相撲	38.3
9	プロゴルフ	31.2
10	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	30.5
11	Jリーグ(J1、J2)	30.0
12	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	27.7
13	海外プロサッカー(欧州、南米など)	23.3
14	プロテニス	20.6
15	F1やNASCARなど自動車レース	11.8
	テレビで観戦した種目はない	6.6

笹川スポーツ財団(2012)「スポーツライフに関する調査」より

の夢は叶わなかった。一時は日本人にとって、五輪、FIWA ワールドカップ(以下、W 杯)に次ぐ第 3 の国際スポーツ祭典と期待された WBC だが、連覇が途絶えた今、今後の展開次第では再び高い関心を集めることは難しく、一気に衰退してしまう可能性すらある。

その一方で、先日(9 月 7 日)、2020 年夏季五輪の開催都市が東京に決定した。7 年後に向け国内で一段とスポーツ熱が高まることは間違いない。野球は今のところ五輪種目から外れたままだが、“国技”ともいえる野球によってその気運をさらに高め、また五輪後もその熱を冷ますことなく野球に向けることは、冒頭の V9 時代と形は異なるにせよ、日本のスポーツ界・産業界にとって歓迎すべきことに変わりはない。そして幸いにも WBC の第 4 回大会は 2017 年、第 5 回大会は 2021 年開催予定と、そのタイミングも絶妙である。

2. 政策提言とその目的

私たちのスポーツ政策ビジョンを端的に述べると、以下の 2 点に集約される。

- **WBC 第 4 回大会(2017)を国民総出で応援する体制を整え、野球世界一を奪還する。**
- **WBC 第 5 回大会(2021)を日本で開催し、東京五輪(2020)のスポーツ熱を持続させる。**

野球はソフトボールと共同で 2020 年五輪種目の残り一枠を争ってきたが、開催都市決定翌日の IOC 総会において、残留が決定したレスリングの次点で惜しくも落選した。

まだ正式種目として可能性が断たれたわけではないが、野球の復活は厳しい状況にある。その中で国内の野球に対する関心を高めるためには、東京での五輪開催によるスポーツ熱を活かし、上記 2 点の政策を実行し、国を挙げて野球を応援する。それにより世界をリードすることで、グローバルスポーツ界における日本の発言権を強化することもできる。さらに WBC の本戦を東京五輪の翌年に日本で開催するとなれば、祭りのあのような燃え尽きや景気後退も回避できる。

しかしそもそも「国民総出で応援する体制」をいかに整えるかが最大の難題である。そのために不可欠な方策として強く主張したいのが【WBC 総選挙】の実施に他ならない。

3. WBC 総選挙の必要性

3.1 1 万人アンケートに基づく WBC 第 3 回大会敗因分析

私たちが WBC 総選挙を不可欠だと考えるに至った経緯は、第 3 回大会の敗因分析を目的に実施した 1 万人アンケート(表 2)の結果による。登録選手数の上限である 28 名を Q3 の上位から導き出し、WBC 第 3 回大会の出場選手と比較したところ、28 人中 15 人が一致したが、その重複率は 54%と低かった。ちなみに同様の質問はサッカー男子日本代表に対しても実施しており、直近の大会であるコンフェデレーションズカップ 2013 のメンバーと比較したところ、23 人中 16 人が一致し、その重複率は 70%と高かった(表 3)。しかも WBC の場合、上位選手の多くが実際の代表メンバーには含まれていない点に特徴がある。

表 2. 独自アンケートの概要

調査期間	2013年5月13日から16日までの4日間
調査方法	インターネット調査
調査人数	1万人
サンプル構成	男女同数、 20代・30代・40代・50代・60代の均等割付

質問番号	質問文	選択方法
Q1	あなたのプロ野球に対する 関心や行動についてお聞き します。 当てはまる項目すべてに チェックしてください。	12項目 (複数選択可) もしくは 「関心がない」
Q2	あなたがもっとも応援してい るプロ野球チームを1つだけ 選択してください。	12球団 (複数選択可) もしくは 「複数チーム」
Q3	もしあなたがWBC(ワールド・ ベースボール・クラシック) 日本代表の監督だったとした ら、どの選手を選びますか？ 以下のリストから1人以上28 人でチェックしてください。	大リーグ16人を 50音順、 プロ野球選手723人を チーム別・ 背番号順で提示 (28人まで 複数選択可)

表 3. 「あなたが選ぶ日本代表」のアンケート結果

WBC					サッカー男子				
順位	選手名	ポジション	所属	支持率	順位	選手名	ポジション	所属	支持率
1	ダルビッシュ有	投手	★シンジャーズ	75.6%	1	香川真司	MF	★ソウルスターズ	78.6%
2	イチロー	外野手	★サンキーズ	58.7%	2	長友佑都	DF	★インテル	59.8%
3	阿部慎之助	捕手	巨人	41.3%	3	本田圭佑	MF	★CSKAモスクワ	57.8%
4	田中将大	投手	楽天	37.7%	4	川島永嗣	GK	★スラヴァ・モルドゥィジャ	48.7%
5	岩隈久志	投手	★マリナーズ	35.3%	5	長谷部誠	MF	★ニュルンベルク	41.5%
6	前田健太	投手	広島	33.7%	6	内田篤人	DF	★シャルケ	40.6%
7	青木宣親	外野手	★ブルワーズ	32.4%	7	吉田麻也	DF	★サウサンプトン	36.6%
8	黒田博樹	投手	★ヤンキーズ	30.1%	8	岡崎慎司	FW	★マインツ	36.2%
9	坂本勇人	内野手	巨人	28.0%	9	清武弘嗣	MF	★ニュルンベルク	34.0%
10	杉内俊哉	投手	巨人	25.1%	10	ル・フー・マイ	FW	★フアイヤッセ	20.8%
11	中田翔	内野手	日本ハム	20.1%	11	宮市亮	FW	★アーセナル	18.1%
12	内海哲也	投手	巨人	18.6%	12	遠藤保仁	MF	G大阪	15.7%
13	上原浩治	投手	★レッドソックス	17.6%	13	酒井高德	DF	★シュトゥットガルト	14.2%
14	藤川球児	投手	★カブス	17.5%	14	乾貴士	MF	★フランクフルト	13.9%
15	能見篤史	投手	阪神	17.2%	15	松井大輔	MF	★レヒア・グダニスク	10.5%
16	内川聖一	外野手	ソフトバンク	16.7%	16	酒井宏樹	DF	★ハートフェー	9.6%
17	長谷久義	外野手	巨人	16.6%	17	佐藤寿人	FW	広島	9.1%
18	鳥谷敬	内野手	阪神	15.3%	18	小野伸二	MF	★ウエスタンユニオン	8.6%
19	川崎宗則	内野手	★ブルーージェイズ	15.0%	19	細貝萌	MF	★ヘルタ・ベルリン	8.5%
20	井端弘和	内野手	中日	14.4%	20	中村憲剛	MF	川崎	8.5%
21	糸井嘉男	外野手	オリックス	13.3%	21	永井謙佑	FW	名古屋	8.4%
22	大谷翔平	投手	日本ハム	12.8%	22	田中マルク駿輔	DF	名古屋	8.3%
23	谷繁元暉	捕手	中日	11.6%	23	大津祐樹	MF	★VVVファンロ	8.0%
24	澤村拓一	投手	巨人	11.1%					
25	菅野智之	投手	巨人	10.7%					
26	稲野篤紀	内野手	日本ハム	10.5%					
27	松坂大輔	投手	★メッツ	9.9%					
28	藤浪晋太郎	投手	阪神	9.8%					

※1 順位が白抜き文字の選手は、代表メンバー外。
 ※2 所属が★印は海外チーム。
 ※3 支持率の分母は、WBCおよびサッカーの日本代表に「興味がある」と回答した4469名および3707名。

両者を比較しての一番大きな違いは“海外”で活躍している選手(所属が★印)の有無である。今日のスポーツ界はグローバル化しており、才能のある選手はより高いレベルに身を置くため、あるいは市場の要請から、飛躍の舞台を海外に求めるのが常識となっている。長らく国民的スポーツの座に安住し、国内完結をメインとしてきた野球もその例に漏れず、1995年に「トルネード旋風」を巻き起こした野茂英雄、2001年以降、日米両国の度肝を抜き続けているイチローらの活躍により、今日ではメジャーリーガーを日本代表と見なす向きが強い。そのような時代背景下にありながら、WBC第3回大会メンバーは“国内組”に限られた。これでは国民側も真の日本代表として受け止めることは難しく、その結果、人気・実力ともに第1回大会・第2回大会を下回らざるを得なかった。この点は多くの識者も指摘する点であるが、私たちの独自アンケートからも客観的に読み取ることができる。

3.2 メジャーリーガーに出場を決意させるための特効策

WBC第3回大会の最大の敗因は、このようにメジャーリーガーの不在にあるといえるが、最初から国内組のみでの参戦を目指していたわけではない。実際には多くのメジャーリーガーに代表入りを打診したが断られたというのが事実である。個別の理由は様々だが、要約すれば、メジャーリーガーにとって「MLBでレギュラーを取り活躍する」ことの方が、「WBC日本代表として世界一を目指す」ことよりも重視されたという一点に尽きる。この傾向はおそらく画期的な打開策なくしては今後も変わらず、彼らの辞退は続くだろう。

だが日本が世界一に輝いたかつてのWBCでは、第1回大会に2名、第2回大会に5名の現役メジャーリーガーが名を連ねていた。この事実は“本人の強い意志”さえあればWBCに参戦することは不可能ではないことを告げる。その意志をもたらすもの、つまりMLBでの評価にも代えがたい動機になるものとは、“日本代表としての誇り”、それを裏

付ける“日本国民からの熱烈な応援”である。そしてその“国民の思い”を明示的に伝えることができる最大の手段、それは国を挙げて行う【WBC 総選挙】以外にないとする。

4. WBC 総選挙の実現可能性と新機軸

4.1 WBC 総選挙の実現可能性

WBC 総選挙の投票方法や選手選考の詳細については検討すべき点が多いが、実現できるか否かという大きな問題でいえば十分に可能だといえる。なぜなら現状でも日本プロ野球機構(NPB)が主催するオールスターゲームにおいてファン投票による選手選考が実際に行われているからである。WBC を政府が国を挙げて支援する体制を明確にし、国民的な盛り上がりが確実となれば、数々の国内大企業に加え、五輪・W杯と同等のグローバル企業も自ら進んでスポンサーに手を挙げるに違いない。そしてその“経済力”をバックにすれば、これまで不利と言われてきた MLB との交渉も有利に進めることができ、私たちが政策提言に掲げる 2021 年日本開催の現実味も増してくる。

4.2 WBC 総選挙における新機軸

WBC 総選挙の実施に際して最も参考となるのは、言うまでもなく既存の NPB オールスターファン投票である。また選手選考に関しても現在そこで行われている「選手間投票」「監督推薦」などの制度を参照すべきだと考える。しかし独自制度を新機軸として打ち出すことも WBC 総選挙の意義を深め、盛り上がりを助けるために不可欠であるとする。特にメジャーリーガーの参加を促す効果のみならず、国内プロ野球をも同時に活性化させることのできる具体策として、最後に以下の 2 案を挙げたい。

- ①知られざる優良選手の発掘:「コアファン」をデータ的に定義し、彼らの得票率の高い選手を“知られざる優良選手”として明らかにすることで若手有望選手への関心を高める。
- ②ファンチームの平等化:「どの球団のファンなのか」という基本属性を取得し、それに基づいて国内 12 球団すべてから代表に選手が選ばれる仕組みを取り入れる。このことで、地域差のない、日本全土を挙げての応援を可能にする。

5. まとめ

東京五輪(2020)への期待が膨らむ今だからこそ、国民的人気スポーツ「野球」の国際大会 WBC も同時に重視すべきとの考えの下、私たちは【WBC 総選挙】の実施を通じて世論を盛り上げたい。それによってメジャーリーガーの参加を確実にし、WBC 第 4 回大会(2017)で世界一奪還、そして WBC 第 5 回大会(2021)日本開催を実現することを提言する。

<資料・文献>

スポーツライフ・データ 2012・スポーツライフに関する調査報告書- 笹川スポーツ財団
WORLD BASEBALL CLASSIC 関東地区視聴率 ビデオリサーチ、2013 年 9 月 20 参照